

Osaka@EURO

n° 3 - 2008年7月

- 今号はパリ事務所が主催、参加した4月のパリセミナー2008、ハノーバーメッセ2008についてレポートします。

パリセミナー2008 について

大阪市パリ事務所では、「OSAKA ROBOTIC WEEK」の一環として、パリにて大阪投資セミナーを開催しましたので、その詳細をご報告します。

4月23日(水)午後、パリ市7区 化学会館においてデジタルクラスター・キャップデジタルと共催した「Seminar on Next Generation robotics」は、アトリエBNPパリバやテバルド社(IT等のセミナーを開催しているパリの企業)の協力も得て、仏政府関係者、ロボット企業、大学、今後ロボットの導入を予定している一般企業、メディア関係者など101名と多くの参加を得ることができました。

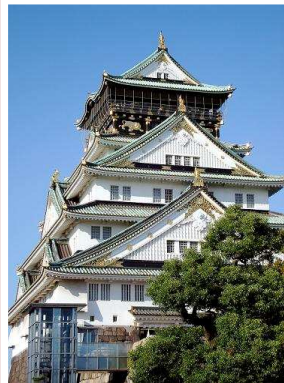
セミナーにおいては、川端大阪市経済局新産業施策担当部長が、市が重点産業としているロボット、IT、健康予防医療産業の状況を紹介したあと、基調講演として、大阪大学大学院工学研究科知能・機能創生工学専攻 浅田稔教授が、大阪における次世代ロボット開発と題して、お話がありました。この中で、人とロボットの関わり、ロボット産業の未来や、ロボットのサッカー世界大会であるロボカップ国際大会(事務局:大阪市)の状況などの説明がありました。特に、次世代のロボットとしては、カメラやセンサーなどで周囲の情報や収集、分析し、自ら判断・行動するロボットの開発状況、また大阪駅北地区のナレッジキャピタルゾーンに大阪市が計画中の最新のロボット技術とビジネスが会う「ロボシティ・コア」について、重点的に説明がありました。また、もう一つの基調講演では、大阪のロボットラボラトリーを拠点としてロボット開発に取り組む企業のネットワーク「RooBO」を代表して赤澤夏郎氏(株)システック アカザワ)が組織の概要及び、これまでに「RooBO」として取り組んだ高速道路における工事用の事故回避ロボットなど、ロボット開発プロジェクトについて講演したほか、システックアカザワ社の小型ロボット「PLEN」のローラスケートでのデモなども行い、参加者の注目を集めました。

大阪市の企業誘致機関であるIBPCからは、大阪への進出インセンティブを説明した後は、ケーススタディとしてゴスタイ社、アルデバラン社、シュナイダーエレクトリック社(大阪市に進出)、ヴィオレ社(ウサギ型コミュニケーションロボットを開発)といった仏IT、ロボット企業の代表が事業概要や日本、大阪との関わりを講演しました。特にアルデバラン社ブルノ・メゾニエ社長が開発した人型ロボットである「Nao」は、ロボカップの正式種目として採用が決定したという説明があり、また、デモンストレーションビデオで概要を知ることができました。



セミナー終了後は、各講師が個別に参加者との意見交換を行うワークショップを開催し、各種ロボット操作のための汎用ソフトである「URBI」を開発したゴスタイ社、クリストファー・バイイ社社長をはじめ、アルデバラン社など会場内各所で講師を囲んでIT、ロボットに関する活発な意見交換が行われ、テーマが明確なセミナーであったとの意見を多くお聞きしました。今後、セミナーで出会った企業と大阪のロボット関連企業との交流など、仏企業の大阪誘致へのきっかけとしたいと思います。

所長 高橋 輝行



ハノーバーメッセについて

日本は2008年ハノーバーメッセのパートナーカントリーであり、大阪市もこの機会を活用してこの世界最大の産業見本市に出展しました。

4月21日から25日まで、大阪が誇るロボット分野における最新の技術や技術革新を紹介しました。また、大阪で活躍するものづくり企業と阪大の著名な研究者たちも自分たちの誇る技術的成果を一緒に展示しました。

大阪市はロボット技術の中心地として世界中に注目していただけるようPRしており、この度、ロボカップ国際委員会プレジデントであり、大阪大大学院教授である浅田稔氏が、次世代ロボットについての自らの研究について紹介していただきました。

また、「RooBO」のアンバサダーであり、有限会社創和の代表の赤澤氏が小さいデスクトップホビーロボットの「PLEN」を紹介しました。この2.3cmという小さいロボットは、すでにヒューマノイドロボットファンには広く認知されていたようで、デモの間、ローラースケートをしたり、ボールをけったりするこのかわいいロボットに人だかりができていました。



また、大阪大の原子物理学の藤原准教授及び鐘ヶ江氏が、環境問題などに関する研究を幾つか紹介しました。

そしてミシマクラフト(株)の宮本社長は自社製品の電気抵抗を利用した溶接機を展示し、また、メタルファンテックの平井社長が世界初の水を活用して片手で切ることができるトイレトーパーパー切を展示して、たくさんの人を引き付けました。

出展者皆さんの力添えにより、大阪市のブースにはこの5日間で500人以上の来場があり、そして約1800枚ものパンフレットの配布ができました。

また、パリ事務所のヨーロッパにおける活動について知ってもらおう絶好のチャンスとなり、そして出展者の方々にとっては、ビジネスマッチング及び海外における引き合いにつながる顧客との出会いの機会になりました。

また、技術紹介とは別に、出展者の中には今回初めてドイツを訪問され、文化交流を楽しまれた方もいらっしゃいました。そして、フランスにも立ち寄り、4月23日に大阪市が開催したパリセミナーに参加し、自分たちの活動を紹介できた人もいました。

最後に大阪で活躍する企業、ヨーロッパ企業で大阪に起業したい企業のみなさま、また、ちょっとでもITに興味のある企業の皆様、来年のハノーバーメッセでは一緒に出展したり、私共のブースを訪問したりしてくださいね!

企業誘致ジュニアコンサルタント
ディアンヌ・ベリエ

